

○21番(小田昌弘君) 市民待望の雨が昨日来降って、誠に喜ばしい次第です。これで、少なからず水の問題につけて心労をわずらわした市民に対し、天の恵みとはいえ、少しでも御安心を願うことができましたことを私たち心より天恵に感謝する次第でございます。

お許しを得まして西藤市長に御質問申し上げます。

(中略)

○市長(西藤五郎君) (中略)

この水の対策ができておるのかということでございますが、これにつきましては先般来申し上げておりますような山田川のダムをかさ上げすると、これはプラスチックに水を送るために考えたんだらうと。こういうことは非常に当っておらないわけでございますが、もちろん現在プラスチックの団地はできておらないが、やがてできると思っておりますが、工場が建っておりません。眼といたしましては、かなりの1,900トンの給水能力に余裕があったけれども、三田市としましてはどこに水を確保するかと、水資源の確保をどこにするかということは、山田川のダムのかさ上げ以外にないと、山田川ダムは3,068トン1日に出すという勘定になっておる、いま1,200トンでございます。これが先般申し上げました260メートルを330にして4,000人分の余裕ができると。ご存じの通りに、昨年でしたか一昨年でしたか、市の方で皆さんに御協議いただいて水の調査費をおきました。専門家にいろいろ調査をさせましたけれども、水系としては山田川のかさ上げ以外にない。そこで、計画を進めて水利権の問題がむずかしく、私たちはこの水利権の問題ではずい分と苦勞をいたしまして、県の河川課にも再三いった。水利権の問題、下の方の地域から三田がかさ上げすることは反対だと。河川課にいきましたら、この問題を解決するのに非常に努力をしております。もちろん、プラスチック工場もくるということもその拡張の考え方の原因ではございますけれども、将来の水確保のために考えたのであって、プラスチックがきたから、その団地のためにこうしたものを作ったということにはならないわけでございます。全く無関係ではないけれども、直接の原因ではないということを申し上げたい。

前から、私が現在の水不足は神戸市と合併することに解決すると、どこでも申し上げておるわけではございませんが、当然起るわけでございます。私たちは神戸市の合併につきましては、まず一番われわれが考えたことは水の確保は神戸市と合併することによって解決すると、それを第1に考えておる。当時の皆さん方は再三意見の交換をしており、まず水の問題は解決する。羽束川の水質のよいところは神戸市の権限に入っており、しかもわれわれの市内に水がいつもたたえておる。青野川についても阪神上水道がもっており、そんな問題は、合併によって地域を1つにすることによって解決するということは当然の考え方でございます。県の責任だということは、これは判断

のものの考え方でございますけれども、その当時にわれわれの10数年間誠心誠意努力してきた問題がわれわれの希望通りにかなえておれば今日の水ききは起らなかったと、これは当然のことです。私たちは、そういう目的のためにやってきた。

それから、3年間何をしておったかと。それは、機が熟さなければいけないと、われわれの市民を不幸にするということ、われわれの願いを聞いていただけなかった。けれども、私たちはそれを立証する方法がない。それと、神戸合併することがわれわれの不幸であるということの立証することが何もない。神戸市の合併問題は打ち切っておるわけではございません。県の方がそこまで反対されるならば仕方がない、われわれの下級自治体であるから中頓をしておこうということでございます。私がそれから3年後、神戸の問題は解決しておらないじゃないかということでございます。これは、一気にそうした問題を解決するわけにいかないで、こんな大きな問題でございますし、県の考え方がかわるということは、1年や2年でかわらないということで静観をしておるわけでございます。そういうことをたえず考えております。水の問題の解決は、行政区画を1つにするということ、真剣に考えておるわけでございます。

45 【ダム建設の目的】 パンフレット「青野ダム」 昭和42年10月

第1章 青野ダム建設の目的

1 三田市および阪神地域の発展に必要な都市用水が不足する

武庫川流域は兵庫県東南部の5市2町を包括しているが近畿圏整備法では三田市、宝塚市、伊丹市、および西宮市、尼崎市の一部が近郊整備区域に西宮市、尼崎市の残部が既成都市区域に指定されていて、この地域は昭和50年頃までに人口が50%増加し、工業生産額も約3倍に上昇するものと推定される。

また、中流部に位置する三田市では近年工業団地造成が進み、工場の進出も多く、これらの工業用水を含めて三田市の上水道用水の水源がその殆んどを武庫川に求めている現状であるが、昭和42年は特に渇水は甚しく、5月末から約1ヶ月断水を行うに到った。

また、阪神間都市の新住居地域として北摂ニュータウン計画が進められ、三田市周辺に約15万~18万の住宅団地計画が真剣に検討されている。

以上の観点より、都市用水として新規に日量約10万tが必要であるため青野ダムを設置し地域を開発する。

2 ダムは河川災害防止の役割を果す

青野ダムにおいて毎秒540tの高水流量を調節して集中豪雨等により毎年浸水被害を受けている三田市内や下流の被害額を年平均6,300百万円以上軽減する。

3 ダムは旱魃防止に役立つ

中、下流の耕地約1,700百町歩の渇水補給を行い、旱魃被害を防除する。

(以下省略)

○本資料は昭和42年10月付で兵庫県土木部河川課発行より発行されたものである。

昭和44年

確認書 三田地域開発計画推進連絡協議会

青野ダム建設について次の事項を申し合わせ確認する。

1. 水配分について

ダム建設で開発される上水の配分は、三田市が必要とする水量を優先する。

2. 生活権の確保について

県および市のあらゆる機関を最大限に活用し、現在以上の生活が確保できるよう最善の努力をする。

3. 損失補償について

補償については、地域の特殊性等を十分考慮し関係者と誠意をもって話し合いを行ない適正な補償をする。

4. 地域開発について

水没地周辺の開発については、県・市および地元関係者で十分協議し、積極的に推進する。

5. 貯水池突縁部について

貯水池の突縁部で浅い所については、調査の結果水没しないよう技術的に可能なかぎり検討する。

6. ダム建設について

ダム建設は諸調査が完了した後地元関係者と十分話し合いの上実施するものである。

115 【地権者の動向に関する回顧】 平成13年11月

当時、一庫ダムの計画がどんどん進んでおり、反対同盟の西村会長にみんなで話を聞きに行った。会長によると坪6万円ぐらいで売れるらしい。関係のあるのは287世帯だったが、家が水没する人、田んぼの一部が水没する人、全部水没する人などそれぞれみんな条件が違い、いくらで売れるかみんな頭で計算する。それで全員の足並みが揃わない。それで待ってられないと条件の同じような連中が集まって農村研究会、ダム研究会など5つぐらいのグループができ、そのなかでダム賛成派もできていった。当初はみんなで日本てぬぐいを発注してそれをしめて団結しようとしていたにもかかわらず。

○元末野・中野地権者会会長の塚本孝一氏談。

貯水池周辺平面図

